

鏡野町の平成史

昭和六四年（一九八九）一月七日、昭和天皇の崩御により始まった「平成」も終わりを迎えることとなりました。平成の三〇年間は、鏡野町域の歴史の中でも大きな転換期となる出来事がいくつもありました。今回はこうした鏡野町の平成史を振り返ってみたいと思います。

まずは始まりの年、平成元年（一九八九）は町村制施行一〇〇年にあたり、上齋原村・富村では、村制施行一〇〇周年記念式典が挙行されています。バブル景気とその余韻に沸く平成初期、現町域ではさまざまな

施設が建てられました。主なものとして、平成元年には大野小学校、恩原高原パノラマゲレンデ、二年には香々美小学校、三年には奥津町民体育館、恩原自然展示館、四年は文化スポーツセンター、奥津小学校、五年は上齋原文化センター、六年はたら展示館（富）などが挙げられるでしょう。

そして、長年苦田ダム建設反対を掲げてきた奥津町では、平成二年についにダム建設を前提とした条件整備の協議に入ることを表明し、平成六年に「苦田ダム阻止特別委員会条

例」を廃止すると共に「苦田ダム建設事業に係る基本協定書」に調印し

ました。その後数々の振興計画が実施されることとなります。苦田ダムは平成一七年（二〇〇五）に運用開始しますが、ダムの振興計画によって、平成中期頃には奥津町域では奥津町役場（現奥津振興センター）をはじめ、花美人の里や道の駅奥津温泉などの施設が造られ、国道一七九号の付け替えによって交通の便も改良されました。上齋原村では平成八年（一九九六）に国民宿舎「いつき」や「いっぶく亭」、富村では一五年

（二〇〇三）に「のどろ温泉天空の湯」がオープンし、町域北部に明るい兆しが見え始めましたが、一方でダム建設により水没予定地域に住む多くの方々が住み慣れた土地を去らねばならなくなつたという歴史も忘れてはなりません。

この頃町域南部の旧鏡野町では、スイスの教育者・ペスタロッチの教育理論を地域づくり・人づくりに生かそうと平成七年より「日本のペスタロッチタウン」というフレーズを掲げて町づくりを進めると共に、現在でも続くスイスのイヴェルドン市との友好都市交流事業が展開されています。

そして、町の平成史の中で最も大きな出来事といえば、平成一七年の

平成の大合併による新「鏡野町」の誕生でしょう。この四町村の合併により鏡野町は面積四一九・七km²となり、県内有数の面積規模を持つ町となり、同年に開催された晴れの国おかやま国体では、地域の結束力の強さを再認識することができました。また、平成一〇年（一九九八）の台風一〇号や、昨年の西日本豪雨などの災害が町内各地に大きな爪痕を残したことはまだ記憶に新しいでしょう。

気がつけばあっという間の三〇年、この間に町域の人口は約三、五〇〇人、学校数は小・中学校合わせて六校が減少し、少子高齢化・過疎化がますます浮き彫りにされた平成時代ですが、近年は町外からの移住者も増え、四季折々のイベントや地域の特徴を生かした産業も注目されつつありますので、これから始まる「令和」時代が子孫に誇ることのできる輝かしい歴史になるよう頑張っていきたいですね。

参考資料：『鏡野町史』『奥津町史』『上齋原村史』『広報とみ』『岡山県市町村ハンドブック』

生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733



上齋原村村制100周年記念式典(平成元年)



第1回ペスタロッツチ祭(平成7年)



合併協定調印式(平成16年)